

News Letter

事務局よりのお知らせ

日本形成外科手術手技学会
理事長 細川 亙

- 目次 -

- * 事務局よりのお知らせ
- * 第19回日本形成外科手術手技学会 印象記
- * 受賞者抄録
最優秀演題賞
- * 第20回日本形成外科手術手技学会お知らせ

この学会は、形成外科手術手技に関する研究・教育の発展と普及を目的とし、また、会員相互の知識の交流を深めることを目指して設立されました。日本において形成外科を専攻し実地的な形成外科診療に携わっておられる多くの医師が参加する学会に発展しつつあります。

さて、第19回日本形成外科手術手技学会学術集会は本年2月21、22日の2日間にわたって名古屋大学形成外科学教授である亀井譲会長の下、ウィンク名古屋で催されました。「技の伝承」というテーマのもと、意欲的なプログラムで運営され大変有意義な学術集会でした。弁護士でかつ医師である田邊昇先生による特別講演「形成外科医のための legalrisk management2014」では現代の形成外科医療における法律上の問題点を分かりやすくご解説頂き大変勉強になりました。また、招待講演では海外から Hung-ChiChen 先生が「The application of various intra-abdominal organs for advanced reconstructive surgeries」の題のもと、内臓を用いた様々な再建手術の数々を披露して下さいました。私はこの招待講演で司会を務めましたが大変興味深く聴かせて頂きました。いずれの講演も臨床医が集うこの学会に実にふさわしい内容であったと思います。本学術集会は大変盛会で演題数も多く、この学会としては初めての2日間にわたる日程の下で2会場を用いた学術集会となりました。亀井譲会長のご尽力に深謝申し上げます。

なお、第20回学術集会は平成27年2月21日に東海大学形成外科学教授宮坂宗男会長の下、鎌倉で開催される予定です。

また学会員の皆様と学会場でお会いできることを楽しみにしております。

平成26年3月末日

第 19 回日本形成外科手術手技学会 印象記

会長 亀井 謙 (名古屋大学 形成外科)

2014年2月21日、22日の両日において、第19回日本形成外科手術手技学会を、ウイנקあいち(名古屋)にて開催させていただきました。会員各位におかれましては、ご協力ありがとうございました。心より厚くお礼申し上げます。

今回は、「技の伝承」をテーマとして、ベテランの先生から若手医師に、手術のコツや落とし穴などを議論していただき、明日からの臨床に直結するようなプログラムとさせていただきました。特別講演には、弁護士と医師のダブルライセンスをお持ちの田邊昇先生をお招きして、外科医が安心して手術をするために必要なことを教えていただきました。また、招待講演として台湾より Hung-Chi-Chen 先生をお招きして空腸を利用した再建のご講演をいただきました。また、2つのシンポジウムでは、「有茎皮弁の落とし穴」「乳房再建における形態の追及」と題して、現役で多くの手術を行っている先生方から、現場での工夫、問題点などについて議論していただきました。パネルディスカッションには、「最近の NUSS 法手術」「遊離皮弁移植のコツ」「ビデオで伝えたい私の手術」を取り上げ、テーマである技の伝承をしていただきました。一般演題は88題をいただき、シンポ、パネルを合わせると120題ものご発表をいただきました。また、参加人数も269名と過去最高を数え、2日間にわたり熱気のコもった議論が広げられ、有意義な学会となりました。これもひとえに会員のみなさまのおかげと思ひ、心よりお礼申し上げます。

本学会がますます発展し、日本形成外科学会会員のお役に立てるように成長していくことを祈念いたしております。

毎回『News Letter』に掲載しておりました学術集会プログラムは日本形成外科学会誌に学術集会抄録として掲載することになりました。従って、今回から『News Letter』には掲載致しませんのでご了承ください。

最優秀演題賞

0-34 マルチ遊離広背筋移植とマルチ神経縫合を用いた陳旧性顔面神経麻痺の再建

東京医科歯科大学大学院形成・再建外科学分野

岡崎 睦、田中颯太郎、宇佐美聡、植村法子、
本間 勉、大久保ありさ、浜永真由子、
森 弘樹

陳旧性顔面神経麻痺に対する動的再建術の一つとして、神経血管柄付き遊離広背筋移植がある。移植筋の胸背神経は、対側顔面神経もしくは同側咬筋神経に縫合されることが多いが、前者を選べば自然な笑いが得られる利点がある一方で、筋肉が動くまでに時間がかかる（or動きが弱い）、健側と独立した動きができにくいなどに欠点がある。後者を選べば、筋肉は早期に動き出す（or動きも強い）利点がある一方で、自然な笑いができにくいなどの欠点があり、一長一短が言われてきた。笑いの再建として対側顔面神経に神経縫合する遊離広背筋移植術では、10～30%で移植筋が動かない（とくに高齢者）場合があり、患者さんを落胆させることとなる。この欠点を補うべく、2つの広背筋体を移植し、それぞれの神経を対側顔面神経と同側咬筋神経に吻合する術式を始めた。また、2つの筋体を、笑いと閉瞼機能の再建に用いる術式や、3つの筋体を移植する術式、不全麻痺の症例では力源の神経の1つに同側顔面神経を用いるなどの応用も可能であった。当大学病院で、8例の陳旧性顔面神経麻痺症例に対して、複数の筋体と複数の神経縫合を用いる遊離広背筋移植で再建を行った。術後3～4か月で咬筋神経由来の動きが出れば、まず患者さんを安心させることができる。その後に対側顔面神経由来の動きが始まれば、自然な笑いができるようになり、咬筋神経由来の動きで意図的に口角を動かすこと可能である。神経を咬筋神経に縫合すれば、実用的な閉瞼機能を再建することが可能であり、脂肪弁を同時に移植すれば輪郭の形成も行える。術式のバリエーションを生かせば、陳旧性顔面神経麻痺に対する動的再建として応用範囲の広い方法と考え、コンセプトと手技を報告する。

0-37 Peroneal perforator-based sural nerve flapによる下歯槽偽神経腫切除後欠損の治療経験

国立長崎医療センター形成外科

林田健志、西條広人、諸岡 真、桑原 郁、藤岡

正樹

【目的】末梢神経断裂の治療において、神経欠損の大きな場合には神経移植術が用いられる。移植神経の役割は再生軸索を円滑に末梢へ導くことにあり、血管柄付き神経移植は血行不良な移植床でも、良好な軸索再生の促進が可能である。今回我々は下顎骨に生じた著しい疼痛を伴う下歯槽偽神経腫に対して腓骨動脈皮枝を茎とする腓腹神経移植を行い、腓骨動脈を犠牲とせず良好な結果を得たので報告する。

【症例】41歳女性。齲歯より生じた下顎骨髄炎の診断で口腔外科にて骨髄搔破手術を受けたのち、次第にオトガイ神経領域の慢性疼痛が出現し、徐々にその範囲と程度が増強してきた。複数回の下顎皮質骨開窓術を受けるも疼痛は改善せず、ペインクリニックにて内服治療や星状神経節ブロック治療なども並行して行われたが症状は5年間全く変わらなかったため、手術的治療も含めて当科に加療を依頼された。保存的加療では難治であったため下歯槽神経の神経修復を踏まえたsurgical explorationを行うこととした。下顎骨外側皮質骨片を除去後、下歯槽神経血管束を露出させると前医での手術部位で下歯槽神経は著明に腫大しており、偽神経腫を形成していると診断した。前医での開窓術は全く無効であったため、偽神経腫を中枢は健全な太さと形状の部位で、末梢はオトガイ孔から皮膚に分布する部位で切除した。下歯槽神経は骨や癒痕に囲まれた神経欠損となり、血管柄付き腓腹神経移植を行うこととした。モニター皮弁を含めた腓骨動脈の皮枝を栄養血管とする腓腹神経を拳上し、神経断端にinterpositionし、顔面動静脈の枝とperforator to perforatorで血管吻合を行った。術直後から疼痛は著明に改善し、術後半年を経過して下口唇部はまだわずかな知覚鈍麻が残存しているが、S-W testや2PDで良好な知覚回復を確認している。

第 20 回日本形成外科手術手技学会お知らせ

会長 宮坂宗男

このたび、東海大学形成外科が、第 20 回日本形成外科手術手技学会を平成 27 年 2 月 21 日（土）に鎌倉で開催することになり、大変光栄に存じます。本学会の今回のテーマは、「豊かな想像力と技の伝達」とさせていただきます。形成外科医にとって最も重要なことは、手先の器用さでなく、知識をもとに想像力を働かせることが、なによりも大切だと思います。本学会は、1996 年に、形成外科内視鏡研究会として始まり、手術手技研究会を経て 2012 年より学会に成長した集会です。前回の名古屋で亀井 護教授のもと開催された学術集会は 2 日間で行い参加者数も大幅に増え大盛況でありました。今回は本学会が出来てから 20 回目で、先達が積み上げてこられた手術手技学会の継承とさらなる跳躍との年となる節目の学会ですので、皆様の記憶に残る学会会場と言うことで世界遺産を逃しましたが、古都鎌倉での開催を決めました。学会会期を 2 日間とすることも考えましたが、一日を古都鎌倉の散策にあてていただければと思います。また今回、細川理事長の許可を得て、日本形成外科手術手技学会（JSITPS）のロゴを募集いたします。多数の応募を期待しております。

特別講演は日本泌尿器内視鏡学会理事長の寺地敏郎先生に「術者の育成- daVinci-」内容でお話しをいただく予定です。

教室員一同鋭意準備を進め、形成外科医の技量向上に寄与できるように努力したいと思いますので、皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。